キャラクター名: 葵乃 奏

プレイヤー名:

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	格闘家	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	女性
覚醒	生誕	衝動	妄想	初期侵食率	35 %
出自	名家の生まれ	経験	トラウマ	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0	3		4
感覚	0	0	0	1		1
精神	6	0	0			6
社会	2	0	0			2

HP	34
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	2	1	調達	5	
運転：			芸術：			知識：			情報： 噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ウエポンケース	
思い出の品	
医療トランク	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
実験体	P	N		
マスター	P 尊敬	N 食傷		
トラウマ	P 恐怖	N 恐怖		
	P 好意	N 不信感		
	P	N		
	P 羨望	N 隔意		
	P	N		

最大財産P: 14	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト・ノイマン	3	2	メジャー					
効果： C値-Lv								
武芸の達人	5		常時					
効果： 暴走してない時は達成値+Lv*3　基礎浸蝕+4								
コンバットシステム	5	3	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	対決		
効果： 白兵ダイス+Lv+1								
フェイタルヒット	5	4	オート	至近	自身	自動	100	
効果： ダメージ+LvD								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

バッドシティでも名家であり同時に武術道場もやっている葵乃家の長男であり、現在は磐境守に所属しているオーヴァードの一人。
幼い頃から四六時中武術の特訓と称した、一種のDVにも近い何かを受けており、若干17歳にして武芸の達人と呼んでも差し支えないほどに成長している。色々あって実家から出た後バッドシティに流れ着き、金も食べ物も尽きあてもなく彷徨っている時にスラムの互助会であった磐境守に拾われ、弱者を守り助け合うという理念を気に入り加わった。
現在は磐境守のメンバーの一人として行動してる他に、ある事で世話になったBarタイラントでウエイターとしてバイトして日銭を稼いでいる。

本当は女の子である。葵乃家は後継として男子を望んでいたが、最初の子供は彼女であった。その為父は酷く落胆し、嘆いた。その内父親は彼女を彼として育てる事を決め、そうして奏(かなで)は奏(そう)になった。
そんな家庭環境の中でも15歳までは後継者に、父の期待に応える為にどんな酷い目にあっても涙一つ弱音一つ吐かずに男として精進してきた。ただ彼は思っていなかった。その先であんな裏切りに合うなんて...
あの日彼は父に言われた。内弟子であり兄弟子である男に宛てがうと、お前はそいつとの間に子を成せと、女に産まれたお前ではどれだけ腕を上げようが葵乃の当主にはなれないと。それならば家の為に早めに結婚して子を作れと。それが葵乃の家に産まれたお前の使命だと。そう言われた私は家を飛び出した。今までの全てが無駄になった様な気がした。自分の努力に意味は無く、それまでの全てを捨てて父の決めた相手と子を成すだけの人生に意味を感じなかった。私は、奏(かなで)は父に取っては特段価値が無かった。私の努力は見て貰えなかったんだな。
そう思いながら持ち出したお金で何とか生活をしていたが、本当にどうしようもなくなって、死にそうになった時、手を差し伸べてくれたのが磐境守の皆だった。私が努力して手に入れたもので皆を守れるなら、こんなに嬉しい事はないんだ。

トラウマ